

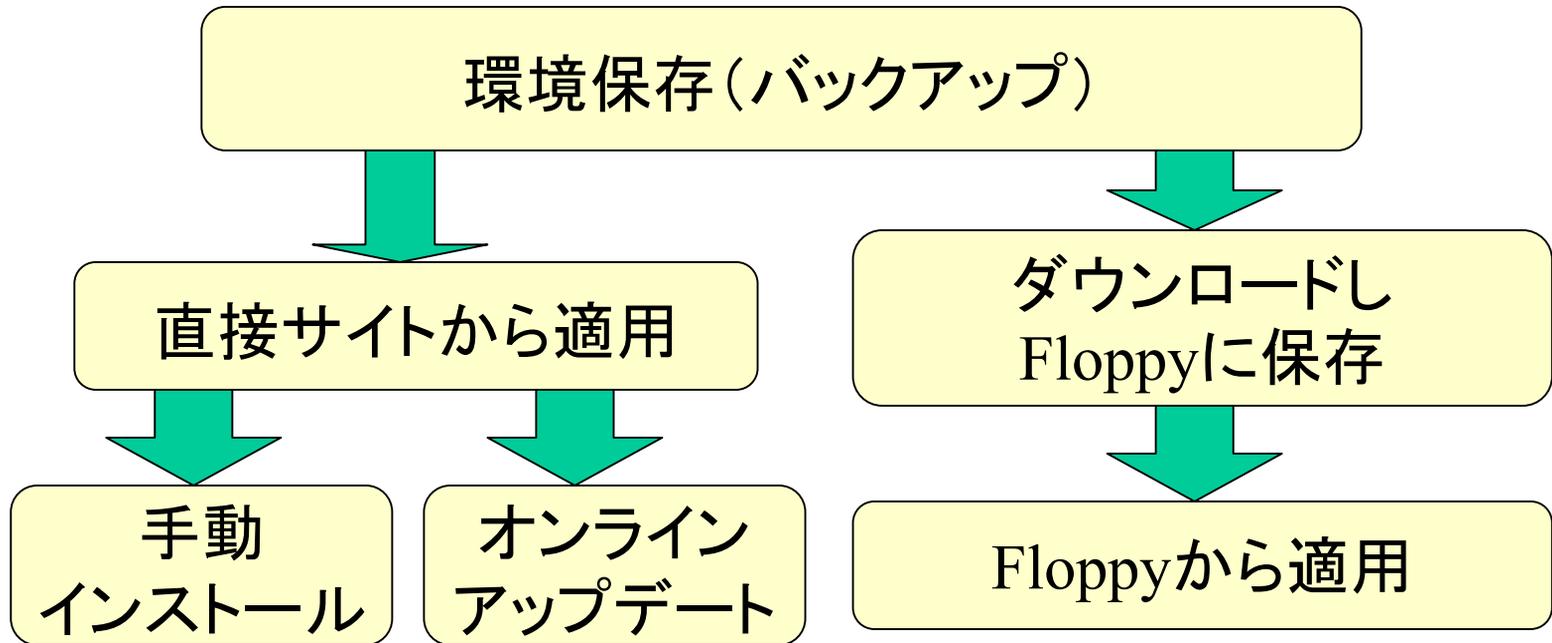
Express5800/MW300a,MW500a,MW500b
(N8100-800,900,902)
パッチ適用手順書

本書は、Express5800/MW300a,MW500a,MW500b(N8100-800,N8100-900,N8100-902)の運用/管理者を対象にした、パッチ適用に関する手順書です。
(Management Consoleの使用方法は、マニュアルなどをご覧ください)

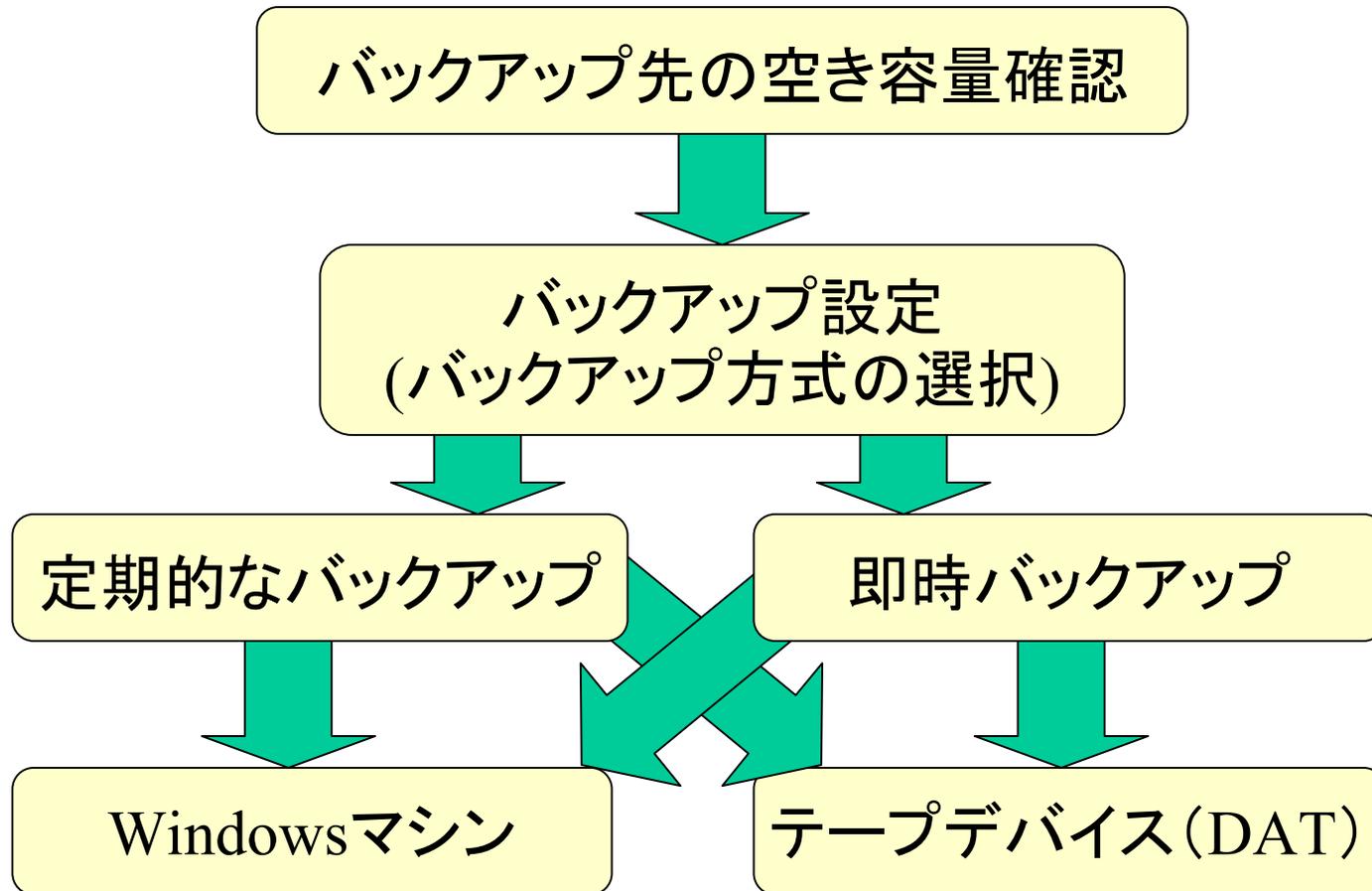
2004/6/10 第2版

NEC

パッチ適用の基本手順



バックアップ手順



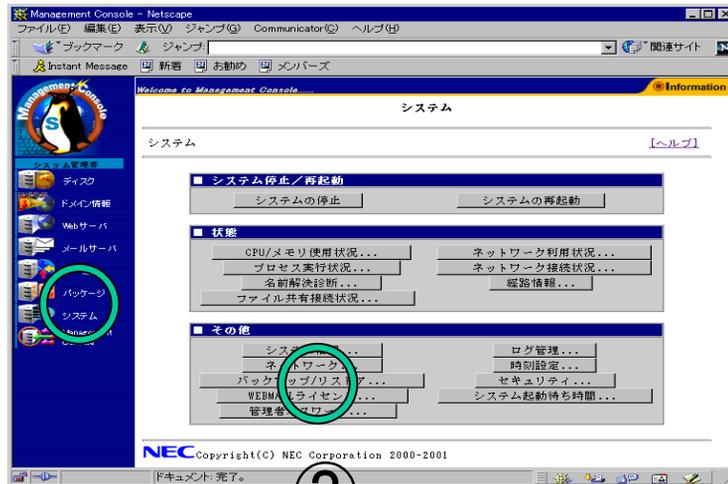
バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(1/2)

1. Windows マシンの共有フォルダの作成

例: ネットワークで接続されたWindowsマシン「winpc」上に「user」というユーザーを用意し、「share」という共有フォルダを作成する。

2. Management Consoleによる設定(1/2)

Management Consoleで以下の順にクリックしてください。



①
システム

③
編集

操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

②
バックアップ/リストア

バックアップ例1 : Windowsマシンへの定期バックアップ(2/2)

2. Management Consoleによる設定(2/2)

以下の内容を入力してください。

■世代・スケジュールの設定

例: 毎週月曜日の朝9:00 にバックアップをとる。バックアップファイルは3 世代分残す。

■Windowsマシンの設定

「Samba」をチェックし、Windowsマシンに接続するための設定を行う。

例: ワークグループ名「workgroup」、マシン名「winpc」、共有名「share」、ユーザ名「user」、パスワード「*****」

■ 編集

説明: システム全ファイル(ユーザ環境復旧)

世代: 3

スケジュール:

毎日

毎週 月曜日

毎月 日

バックアップしない

時刻: 9 時 0 分にバックアップ

バックアップ方式:

ローカルディスク ディレクトリ: /var/backup

Samba

ワークグループ名: workgroup (NTドメイン名)

Windowsマシン名: winpc

共有名: share

ユーザ名: user

パスワード: *****

設定 即実行

最後に[設定]ボタンをクリック

バックアップ例2: Windowsマシンへの即時バックアップ(1/2)

即時バックアップは、定期バックアップの操作とほぼ同じです。異なる点は、Management Consoleの設定中以下の画面で「世代・スケジュール」の設定を行わないこと、最後に「即実行」ボタンをクリックすることです。

世代・スケジュールを
設定しない

■ 編集

説明: システム全ファイル(ユーザ環境復旧)

世代: 3

スケジュール: 毎日
 毎週 月曜日
 毎月 日
 バックアップしない

時刻: 9 時 0 分にバックアップ

バックアップ方式:

ローカルディスク ディレクトリ: /var/backup

Samba ワークグループ名: workgroup
(NTドメイン名)

Windowsマシン名: winpc

共有名: share

ユーザ名: user

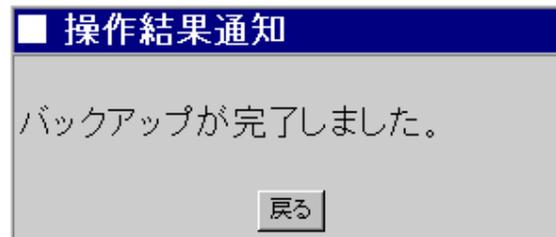
パスワード: *****

設定 即実行

最後に「即実行」ボタンをクリック

バックアップ例2: Windowsマシンへの即時バックアップ(2/2)

「即実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。

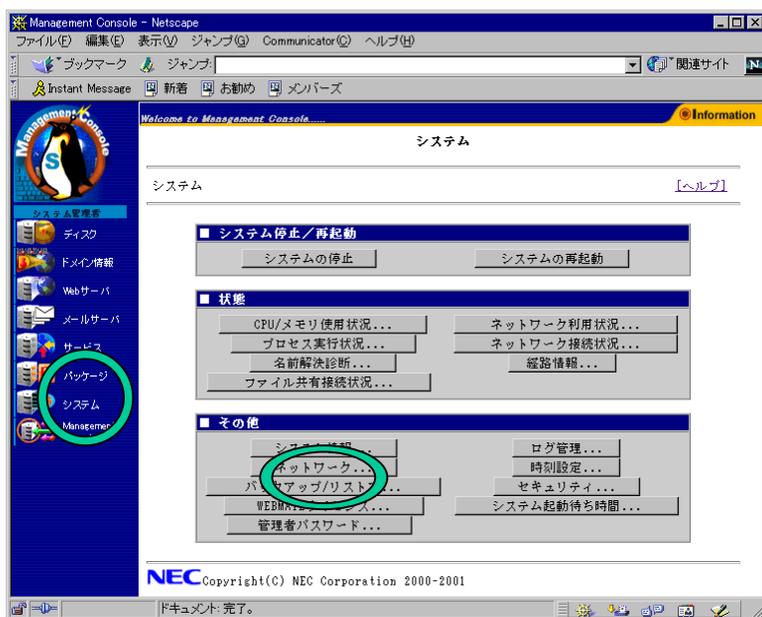


注意

「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていませんので、必要であれば「各種ログファイル」を選択して同じ手順でバックアップを行う必要があります。

バックアップ例3:テープデバイス(DAT)への定期バックアップ(1/2)

テープデバイス(DAT)が正しく接続されていることを確認して、Management Consoleから以下の操作を行って下さい。



操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

①

システム

②

バックアップ/リストア

③

テープバックアップ

バックアップ例3: テープデバイス(DAT)への定期バックアップ(2/2)

以下の内容を入力してください。

テープデバイス名を指定する

■ テープデバイス

デバイス名
/dev/nst0

設定

■ 世代・スケジュールの設定

例: 毎週月曜日の朝9:00 にバックアップをとる。

■ バックアップ

スケジュール: 毎日
 毎週 月曜日

毎月 日
 バックアップしない

時刻: 9 時 0 分にバックアップ

バックアップ対象

- システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
 - システム、各種サーバの設定ファイル
 - ユーザのホームディレクトリ
 - メールスプール
 - メーリングリスト
- 各種ログファイル
- ディレクトリ指定

設定 即実行

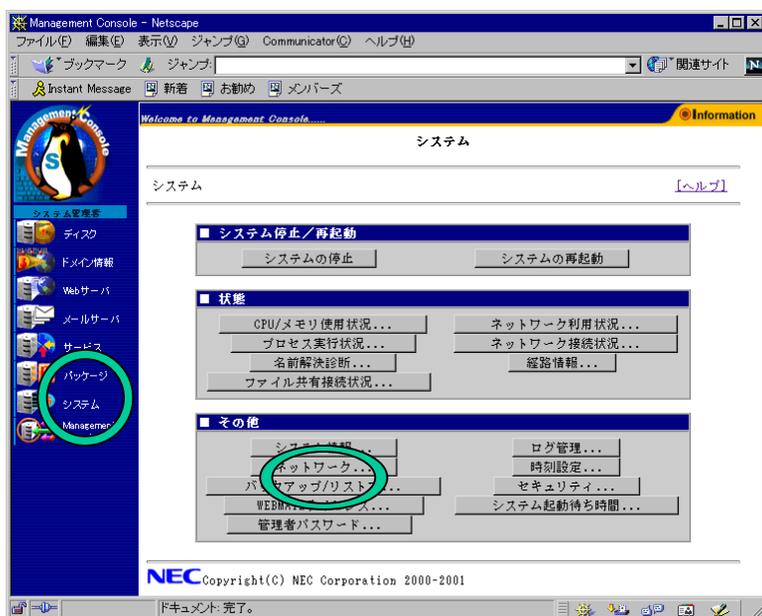
ここをチェックする

必要であればチェックする

最後に「設定」ボタンをクリック

バックアップ例4: テープデバイス(DAT)への即時バックアップ(1/3)

テープデバイス(DAT)が正しく接続されていることを確認して、Management Consoleから以下の操作を行って下さい。



操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

①

システム

②

バックアップ/リストア

③

テープバックアップ

バックアップ例4:テープデバイス(DAT)への即時バックアップ(2/3)

バックアップを実行します。

テープデバイス名を指定する

■ テープデバイス

デバイス名
/dev/nst0

設定

このみチェックすればよい

■ バックアップ

スケジュール: 毎日
 毎週 月曜日
 毎月 日
 バックアップしない

時刻: 9 時 0 分にバックアップ

バックアップ対象

- システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
 - システム、各種サーバの設定ファイル
 - ユーザのホームディレクトリ
 - メールスプール
 - メーリングリスト
- 各種ログファイル
- ディレクトリ指定

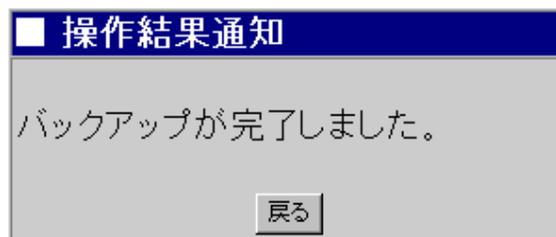
設定 即実行

必要であればチェックする

「即実行」ボタンをクリック

バックアップ例4:テープデバイス(DAT)への即時バックアップ(3/3)

「実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



バックアップの補足事項(1/2)

1. 「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていないので、必要に応じて「各種ログファイル」をバックアップする必要があります。
2. 「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」のバックアップは、
 - ・システム、各種サーバの設定ファイル
 - ・ユーザのホームディレクトリ
 - ・メールプール
 - ・メーリングリスト

の項目をバックアップすることと同じ意味になります。

両方の項目を指定すると、二重にバックアップされますので領域/時間の無駄が発生します(動作上の問題はありません)。

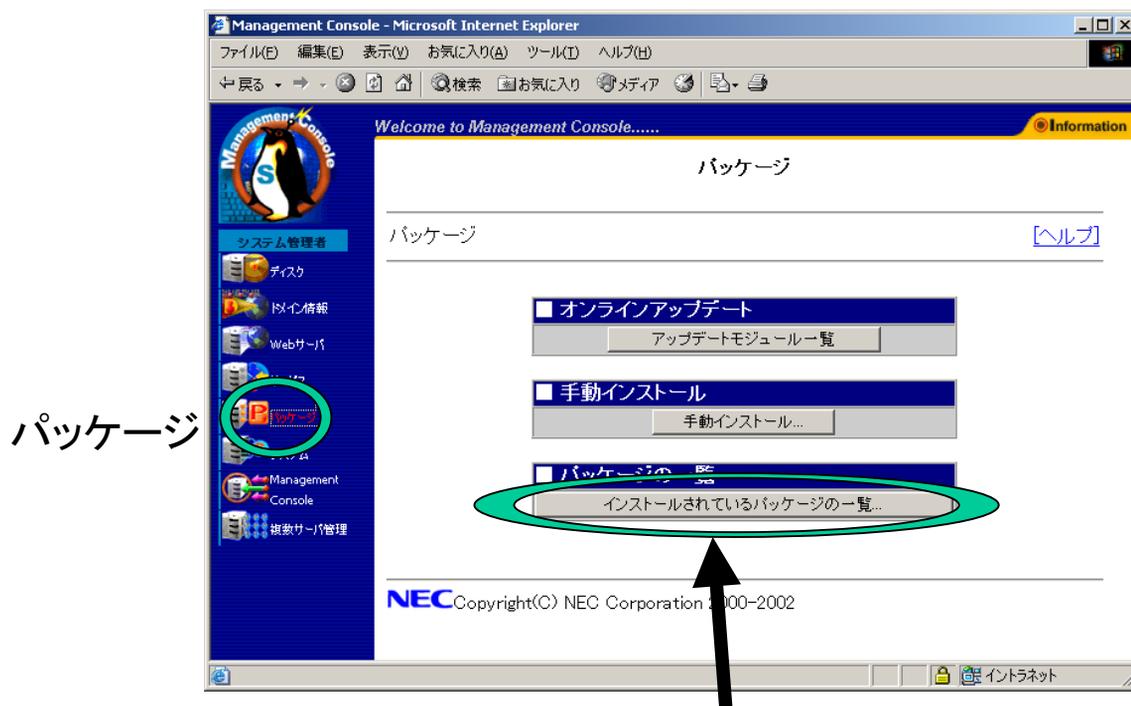
ただし、ロードバランスクラスタ形態の場合、メールプールとメーリングリストは含まれません。

バックアップの補足事項(2/2)

3. ESMPRO関連の情報はバックアップされません(リストアによる動作が保証されていないためです)。したがってESMPRO関連の設定については、OS再インストール後、ユーザーズガイドにしたがいあらためて行ってください。

パッケージ適用状態確認(手動インストール時)

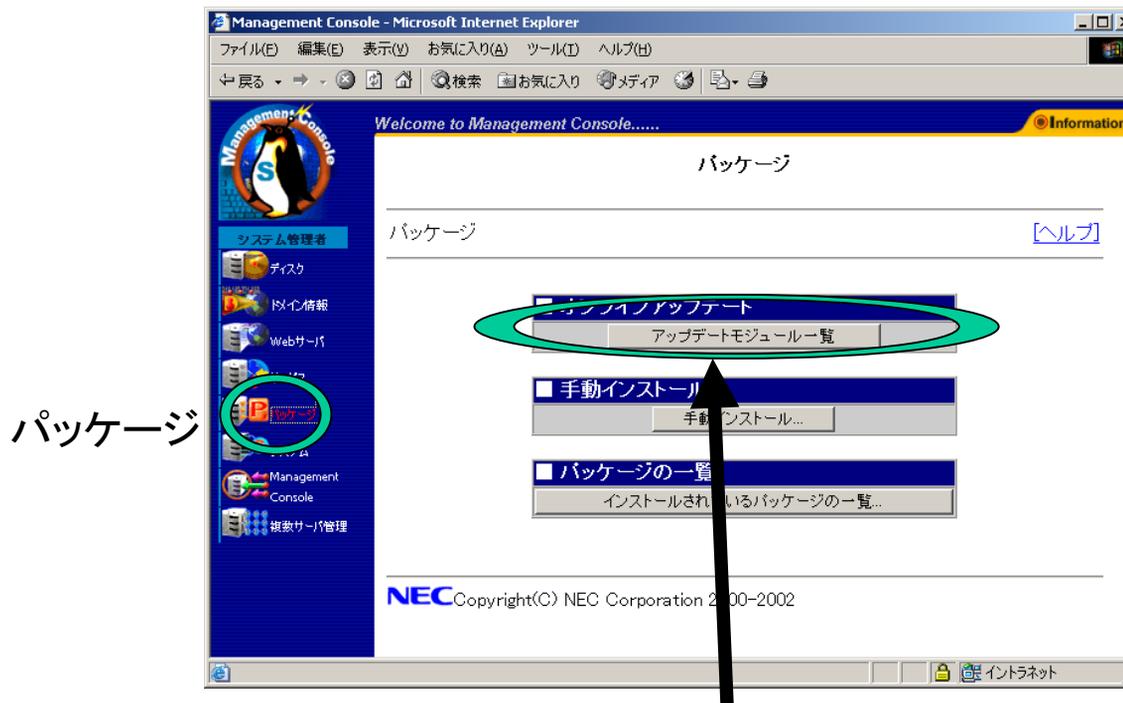
適用可否を判断するため、サーバ内のパッケージ適用状態を確認します。Management Console でパッケージをクリックし、[パッケージの一覧]の[インストールされているパッケージの一覧...]ボタンをクリックして下さい。これでサーバ内のパッケージ一覧が表示されます。



[インストールされているパッケージの一覧...]ボタンをクリック

適用方法1:オンラインアップデート(1/4)

適用可能なアップデートモジュールの一覧を確認します。
Management Console でパッケージをクリックし、[オンラインアップデート]の[アップデートモジュール一覧]ボタンをクリックして下さい。

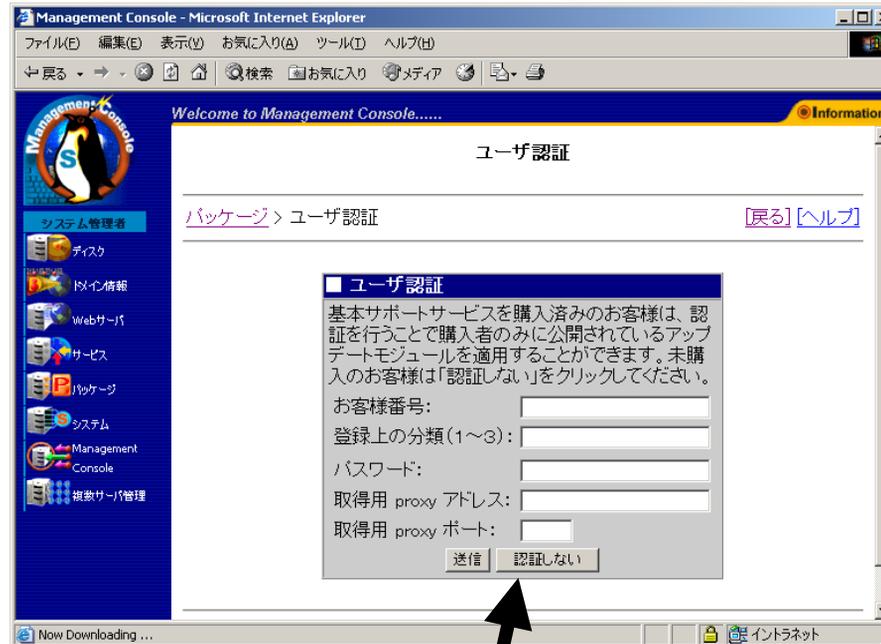


[アップデートモジュール一覧]
ボタンをクリック

適用方法1:オンラインアップデート(2/4)

初めてオンラインアップデートを利用する場合、また公開モジュールの最新情報を取得する場合は基本サポートサービスのサポート契約の認証情報の入力が必要です。

セキュリティーアップデートに関してはサポート非契約者にも提供されます。この場合は[認証しない]ボタンを押してください。



認証情報を入力して[送信]、
もしくは[認証しない]

適用方法1:オンラインアップデート(3/4)

ネットワーク経由で取得した公開モジュール情報から適用可能なアップデートモジュールの一覧を表示します。未適用のモジュールには「適用」欄に「未」と表示されます。

適用したいモジュールの[適用]ボタンを押すと適用確認画面が表示されます。

最終更新日付: 2002/11/26

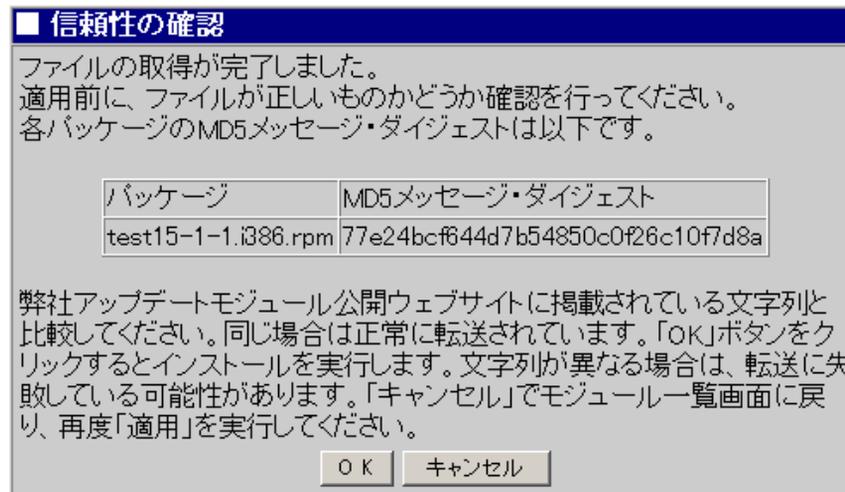
最新情報に更新

■ アップデートモジュール一覧				
日付	概要	パッケージ名	適用	操作
	N8100-800用テストモジュールです。全ユーザに公開。test15-1-1 をインストールします。	test15-1-1	未	<input type="button" value="適用"/>
	N8100-800用テストモジュールです。契約ユーザに公開。test16-1-1 をインストールします。。。	test16-1-1	未	<input type="button" value="適用"/>

適用したいモジュールの
[適用]ボタンをクリック

適用方法1: オンラインアップデート(4/4)

ネットワーク経由で取得した公開モジュールのパッケージの信頼性の確認を行ってください。アップデートモジュール公開サイトに掲載されているメッセージダイジェスト文字列と画面に表示されるメッセージダイジェスト文字列が一致する事を必ず確認してから[OK]ボタンを押してください。[OK]ボタンを押すとアップデートモジュールが実際に適用されます。

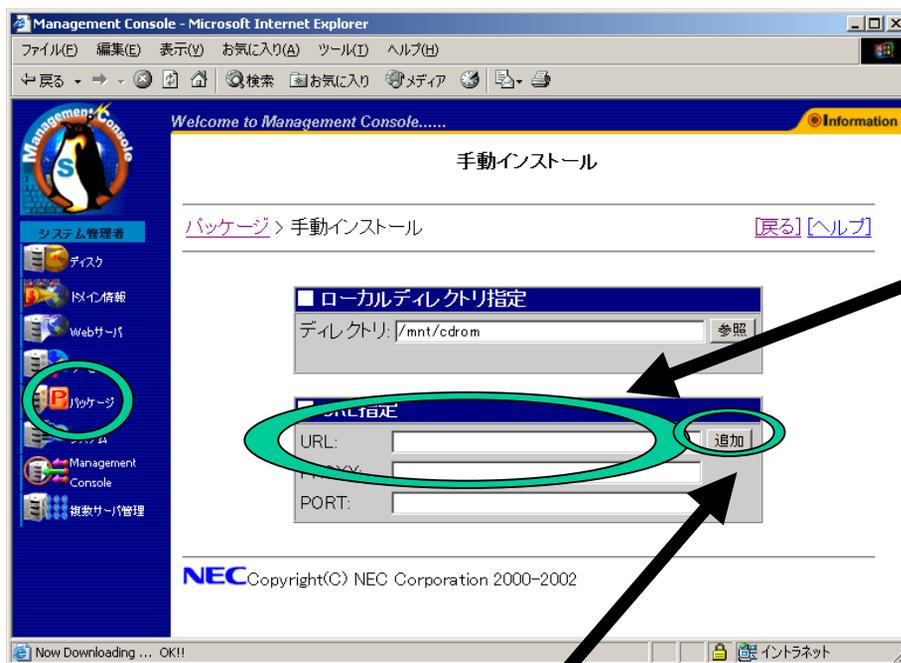


MD5 文字列を確認してから
[OK]ボタンをクリック

適用方法2: 直接サイトから適用(1/2)

あらかじめ適用するパッケージのファイル名をサイトで調べておきます。
次に、Management Console でパッケージをクリックし、[手動インストール]ボ
タンをクリックして、[インストール(URL指定)]に適用したいパッケージのフ
ァイル名を指定し、[追加]ボタンをクリックして下さい。

パッケージ



■ インストール(URL指定)
適用するパッケージのファイル
名をサイトごと指定する。

指定例)

<http://www.dom.com/perl-5.00503-3>

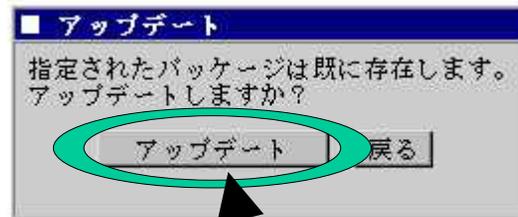
[追加]ボタンをクリック

適用方法2: 直接サイトから適用(2/2)

次のメッセージが表示されます(古いバージョンが存在すると表示されるメッセージです)。**[アップデート]**ボタンを選んで下さい。

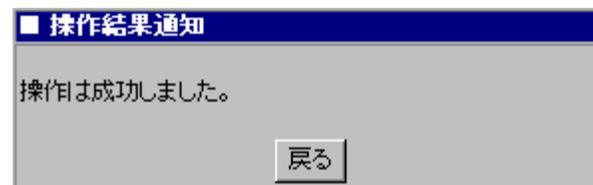
※なおパッケージが存在しなかった場合は、前頁の**[追加]**ボタンを押すと、即座にパッケージのインストールが開始されます。

※すでに同じパッケージが存在する場合は、エラーメッセージが表示されます。



[アップデート]ボタンをクリック

パッチの適用が正しく行なわれた場合は以下の操作結果が通知されます。



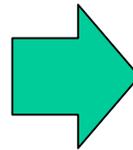
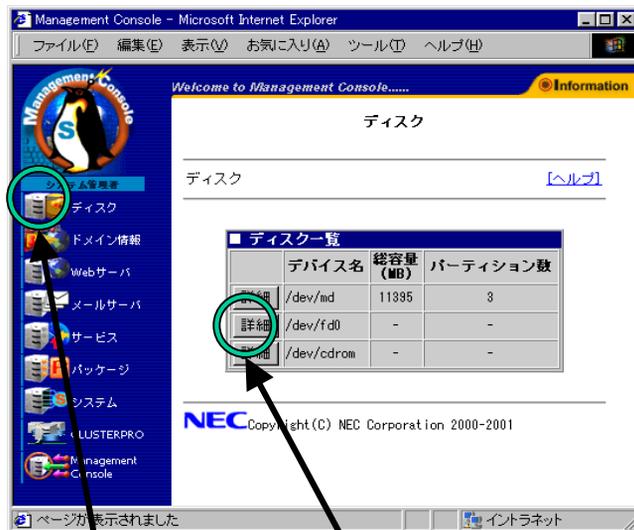
適用方法3: Floppyから適用(1/4)

ダウンロードしFloppyに保存

パッチを別途ブラウザ等でダウンロードして、Floppyディスクに保存して下さい。

Floppyのマウント

パッチを入れたFloppyディスクをマシンに挿入後、Floppyをマウントして下さい。



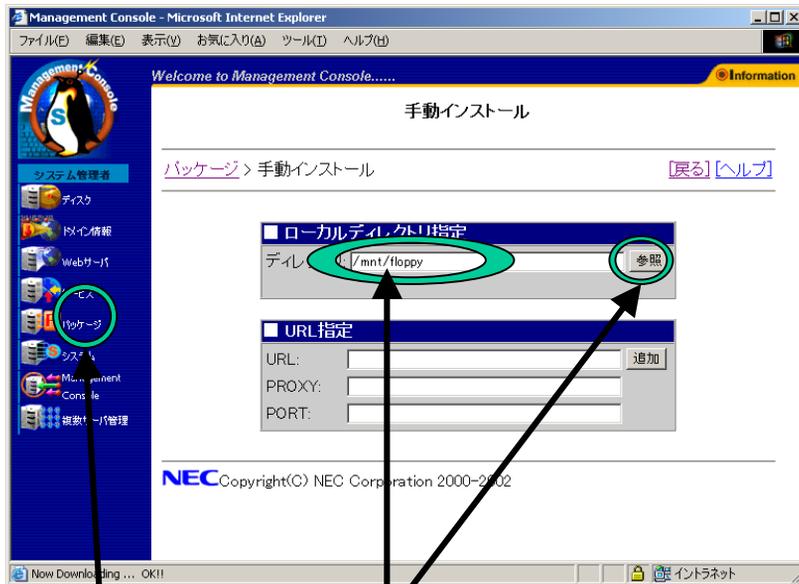
①「ディスク」を選択する。

② /dev/fd0の「詳細」ボタンをクリックしてディスク詳細を表示する。

③「接続」ボタンをクリックしてFloppyをマウントする。

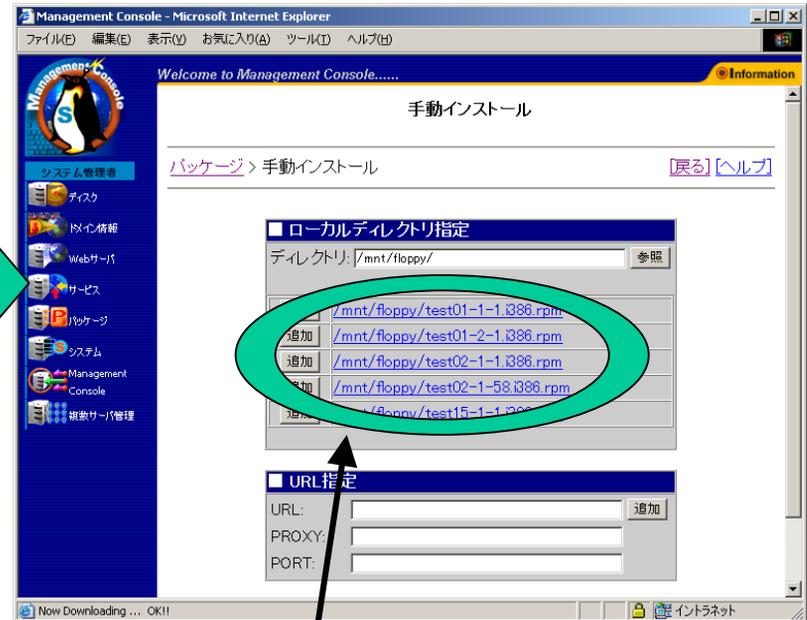
適用方法3: Floppyから適用(2/4)

Floppy上のパッチの指定



①「パッケージ」を選択して[手動インストール]ボタンをクリックする。

②ディレクトリに“/mnt/floppy”を指定して「参照」ボタンをクリックする。



③Floppy中のパッチやディレクトリの一覧が表示される。

備考: ①で適用するパッチファイルパスも含めて指定するとそのパッチファイルのみが表示されます。

適用方法3: Floppyから適用(3/4)

パッチの適用

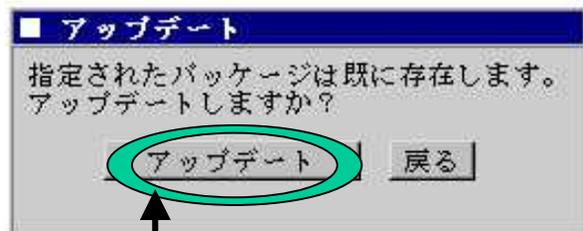
パッチの適用を行います。



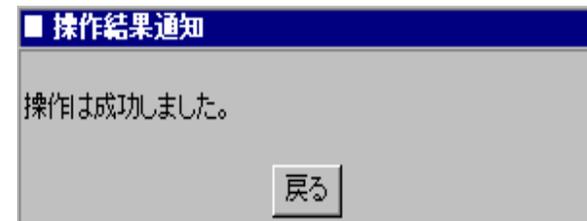
① [追加] ボタンをクリック



② [OK] ボタンをクリック



③ [アップデート] ボタンをクリック

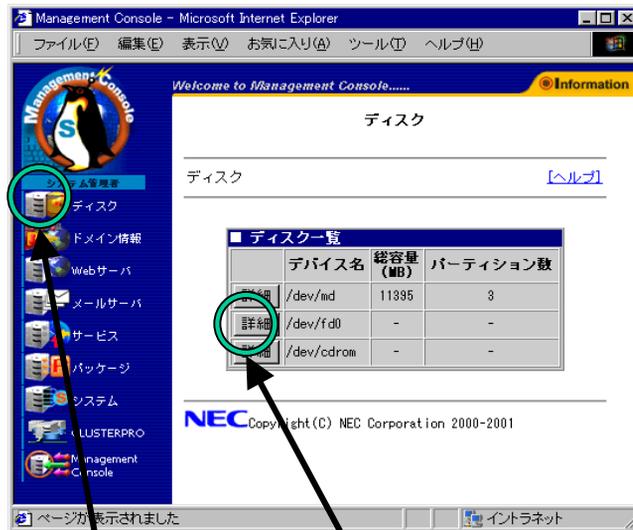


備考: ②で古いバージョンが存在するとアップデートの確認メッセージが表示されます。適用する場合「アップデート」を選択して下さい。

適用方法3: Floppyから適用(4/4)

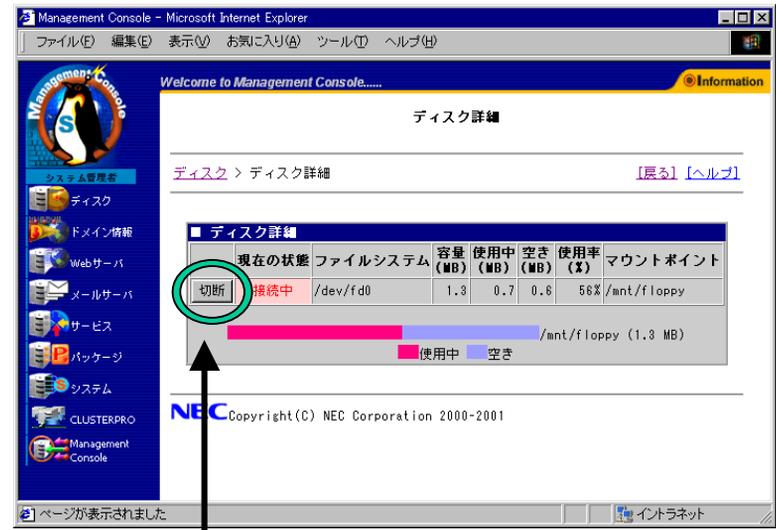
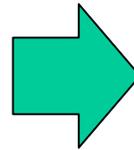
Floppyのアンマウント

Floppyディスクはアンマウントした後に取り出して下さい。



①「ディスク」を選択する。

② /dev/fd0の「詳細」ボタンをクリックしてディスク詳細を表示する。



③「切断」ボタンをクリックしてFloppyをアンマウントする。